

**<先進地紹介>****デマンド交通を活かした“まちづくり”(宮城県栗原市一迫地区)****○栗原市（一迫地区）の概要**

栗原市は、平成17年4月に10町村が合併して誕生した新しい市です。デマンド交通が採用された一迫地区は、合併前の旧一迫町で構想が練られていました。一迫川が地域の中心を流れ、森林が地域の約半分を占めている農村地域です。JRや私鉄路線が地区内を通っていないためバスが公共交通の主力となっていました。

○デマンド交通を採用した理由

近年景気低迷、少子・高齢化等により地域の公共交通として3本あったバス路線が1本に減ることになり、“交通弱者である高齢者を何とか助けたい”，さらには“市民交流や商業の活性化のため何ができるか”という観点から公共交通の見直しを検討するに至りました。この検討から平成16年度から「まちづくり交付金事業」を活用し、採用されたものが新公共交通システムとなる「デマンド交通」です。



情報センター（ここで受け取ります）

○デマンド交通とは・・・

デマンド交通とは、「ふれあいタクシー」と呼ばれ、事前に登録しておけば電話で直接自分の家の玄関から目的地まで運んでくれるシステムです。利用したい時刻の30分前までに申し込むことが可能で使いたい時間を選んで利用できます。帰りも同じ方法です。

運営は、一迫花山商店街が行っており、現在登録者数約3,500人、1日平均利用者数約130人となっており、特にお年寄りの買い物や病院への通院に役立っているようで利用者には大変好評です。

○これからの課題

“平日だけでなく休日まで運行してほしい”，“旧一迫地区でのみ活用されているこのシステムを、地域外まで広げてほしい”など様々な要望があり、厳しい財政状況の中どう対応していくかが課題となっています。



バスには逐一乗降客の情報が入ります